お稲荷さんの話

私の家の裏山の中腹に,小さいお稲荷さんのほこらがある。私が小さい時,
祖父から聞いた昔話。

昔,ある冬のこと,一人の男が裏山で沢山の木を切って,ほら穴の前
にその木を積み上げたげな。ところが,その晩から近所の家では不思議
なことが起きた。夕方外に出ると道ばたの茶の木のグロなどガサガサ音
をたてる。夕食の時,いろりのそばで食事を始めると,茶釜の茶柄杓が
手をかけぬのに宙に舞い上がり,台所中を飛びまわり,茶碗湯呑など食
物の中には砂がふりかけられ,お酒を飲もうとすると,いろりの灰がつ
まみこまれるなどいたずらがあり,皆驚いておったげな。
すると,ある晩のこと,ある人の夢枕に烏電子(えぼし)直垂姿(ひたたれすがた)
の神様がお立ちになり「この部落の農作物の農作と火の用心の守りをするから,
ホラ穴の前の木をすぐにのけてくれ」とお告げがあったげな。
そこで,近所の人達は早速に木をとりのけて,そこに,小さなお堂を建
ててお稲荷さんとしておまつりをしたら,おいたはなくなったげな。
その後,雨の日の日暮時など烏帽子,直垂,高歯の下駄に蛇の目の傘でとて
も立派なお姿で散歩されるのを拝んだ人も居ったとか。そして,ここのお稲荷
さんは時々京都伏見のお稲荷さんのお話合いにヒ京され,留守の時もあり,近所
の人達が今頃はお稲荷さんはこちらにおられるかなど噂をすると台所の自在釣
がガタガタと音をたててゆすぶられ,又は糸車がカラカラと自然に廻るなど,
無事で居るとの知らせがあったりいろいろ不思議な事があったげな。部落では
弥生の春お花見の日を縁日と定め,農作物豊穣と火の用心をお祈りしお祭り
しています。この度,新築工事を進められ益々信仰を厚くしております。

沼田風土記　３３ページ
昭和 58 年 3 月
広島市沼田公民館より